

ふぉーらむ・F

【フォーラム・エフ】

1

Nov.2011

福島県民俗学会

http://www.geocities.jp/fukushima_folklore

http://blogs.yahoo.co.jp/fukushima_folklore1971

■ごあいさつ 会長就任と創刊にあたって

福島県民俗学会会長 佐々木 長生

大迫前会長が他界された直後の東日本大震災という未曾有の自然災害、それに伴う原子力発電所の爆発事故という自然と科学の災害に見舞われている福島県。これまで長年の歴史を経ながら育まれてきた福島県の民俗が、今その危機にさらされています。

とくに、浜通り地方は原発事故により強制的に避難を余儀なくされている地域が多くあります。村から民俗が消えた状態です。これまで福島県民俗学会の紡いできた研究成果は、多々あります。こうした現在状況において、今までの成果を被災地域の復興に生かせるよう努めることも、私たち福島県民俗学会の一つの責務かと思えます。

民俗はその土地の風土に生まれ継承されてきました。そうした点からも、被災地を復興させるためには先学の研究業績を再考しながら、私たち会員が一丸となって福

島県の民俗調査・研究に更に取り組むことが必要です。このことが、これまでの調査・研究のために資料を提供して下さった地域の人たちへの御礼と思っています。

歴代会長の業績からすると、未熟な私ですが、更なる福島県民俗学会の発展に貢献したく考えています。

ところで、福島県民俗学会では会員の研究成果を掲載する機関誌『福島の民俗』を刊行しています。数年前にはホームページを開設し、今年度からブログも設けました。しかし、会員間の情報交換をより密にするための印刷物が必要ではないかという声が高まり、新たに『ふぉーらむ・F』というニューズレターを発刊する運びとなりました。フォーラム Forum の原義は「広場」という意味ですが、会員の皆様が交流する場であってほしいということから、こう命名しました。また「F」は福島の F でもあり、Folklore の F、Forum の F、freedom の F というようにさまざまな解釈ができます。皆様と一緒に『ふぉーらむ・F』を育てていきたいと思っています。どうかよろしく願いいたします。

Announce

* 事務局移転に関する重要なお知らせ

10月29日の地域持ち回り研究会の後、幹事会を開催し、事務局移転の案件を協議した。

創設以来事務局は郡山市の開成館に置いてきたが、新たに福島県立博物館（奥付参照）に事務局を移す方向で準備している。会則改正を伴うため、正式には来年度総会以降となるが、会員に対し早めに通知することにした。連絡がある場合は、福島県立博物館民俗担当学芸員の榎陽介氏か内山大介氏を通していただきたい。

☎ 965-0807 福島県津若松市城東町 1-25

福島県立博物館内（榎もしくは内山担当）

* 日本民俗学会談話会を仙台で開催

日本民俗学会では、12月3日（土）13:00～17:30に、東北大学片平さくらホール（仙台市）で、第860回談

話会を開催します。内容は「東日本大震災関係シンポジウム」。岩手、宮城、福島各県からの報告があり、本会から大山孝正会員がパネラーとして出席予定。

* 機関誌『福島の民俗』40号の原稿募集

平成24年3月に発刊する機関誌は、通算40号になります。大迫徳行前会長の追悼と、会の創設40周年の記念号として編集しますので、多くの会員からの投稿を歓迎します。テーマは①大迫先生の思い出の追悼原稿、②通常の論文報告等とします。

投稿規程はホームページにありますが、原稿枚数を厳守願います。追悼文は2ページ以内、論文・報告は図表を含め14ページ以内、短信等は2ページ以内してください。デジタル編集をしますので、とくに支障がない限り、デジタルデータで作成してください。締め切り日や原稿の送り先などの詳細はハガキで通知しますが、締め切りは1月中旬ごろになります。

平成 23 年度 総会報告

事務局 大山 孝正

今年度の福島県民俗学会総会は、大迫徳行会長の急逝、東日本大震災と原発事故による影響などもあって、通例の6月開催が不可能になり、会員の皆様にはご心配をおかけいたしました。会員全員の安全が確認できたことは幸いでしたが、被災された方、避難を余儀なくされた会員もおられます。落ち着いた生活を早く取り戻すことができるよう、心より祈念いたします。

*日時：平成 23 年 8 月 7 日 (日)10:00~10:40

*場所：郡山市歴史資料館 *出席者：15 名

- 1 開会
- 2 会長代行あいさつと黙祷

佐々木長生会長代行（副会長）より、大迫徳行前会長が2月22日に逝去されたことについて報告があった。出席者全員で前会長の威徳を偲ぶと同時に、東日本大震災で犠牲になった方々に対し黙祷した。

3 議長選出

議長に相原達郎氏（幹事）を選出した。

4 新会長選出

今期会長の大迫徳行氏の急逝に伴い、副会長の佐々木長生氏が会長代行を務めていたが、種々不都合もあるので、協議の結果新会長を選出することにした。

選出方法についての取り決めが会則にないことを、事務局より説明した。会場より2名の会員について推挙があったがその場では決定しなかったため、先に選出方法を総会の出席者で決定することとなった。その結果、無記名投票で決定すべきとの意見がもっとも多かった。推挙のあった2名の中から、無記名投票で、佐々木長生副会長を新会長に選出した。

なお、新会長の任期は前会長の残り任期（平成 24 年度総会まで）とし、他の役員と同時に改選することとした。佐々木副会長が会長になったため、副会長1名については空席とした。

5 平成 22 年度入会ならびに退会者

入会者 末永雅洋さん 退会者 氏家武夫さん（22年5/26逝去）、大迫徳行さん（23年2/22逝去）、渡辺康芳さん（22年度末退会）

6 平成 22 年度決算案ならびに事業実施報告

事務局より提出された資料、「平成 22

年度収支決算報告」をもとに、平成 22 年度の決算案と事業実施報告について説明し、会計監査の相馬胤道会員の承認を得たことについて報告した。その結果、満場一致で承認された（報告書は別掲）。

7 平成 22 年度事業報告（機関誌 39 号既出）

■ 6月6日 総会・研究発表会・講演会（郡山市歴史資料館）

公開講演 赤羽正春氏（日本民俗学会会員）

研究発表2名 太田史人会員 榎陽介会員

■ 11月7日 地域持ち回り研究会（会津地域〈福島県立博物館〉）

研究発表2名 川合正裕会員 佐々木長生会員

■ 11月20日 第28回東北地方民俗学合同研究会（青森県民俗の会主催 浅虫温泉ホテル南部屋〈青森市浅虫〉）テーマ「東北のオシラ神」

本会からは小澤弘道会員が発表に参加した。「福島県のオシンメイ様」小澤弘道会員（福島県）

■ 2011年3月30日 『福島の民俗』第39号発行

8 平成 23 年度予算案ならびに事業計画案

(1) 予算案について

事務局より、資料「平成 23 年度予算書」をもとに、平成 23 年度予算案について説明した。その結果、満場一致で承認された。

なお、(2)～(3)について事務局から説明した。概要は以下の通り。

(2) 東北地方民俗学合同研究会について

本年度の当番県である岩手県より詳細な連絡がないので、確認がとれ次第、追って各会員に連絡すると報告。総会終了後、7月18日付で岩手民俗の会より、本会あてに文書が届いていたことが判明した。

今年度の合同研究会は12月3～4日に開催する予定であったが、12月3日（土）日本民俗学会が仙台で震

総収入	417,153 円			
総支出	407,473 円			
繰り越	9,680 円			
収入の部	予算額	決算額	増減	内訳
会費	174,000	165,000	△ 9,000	3,000円×56人
機関誌送料	30,000	1,500	△ 28,500	17・3冊等4900×3
文化振興助成金	200,000	200,000	△ 0	会費振興文化振興事業団から
寄付金・その他	0	50,639	▲ 50,639	寄付(会費補助)10000円、修学費279円
繰越金	614	614	△ 0	前年度繰越金
計	404,614	417,153	▲ 12,539	
支出の部	予算額	決算額	増減	内訳
1 事務費	76,000	41,873	△ 34,127	
内 事務経費	9,000	9,000	△ 0	機関誌送料(1,000)・日本民俗学会(8,000)
内 通信・印刷費	65,000	32,873	△ 32,127	機関誌送料、郵送、文具、現金を厳禁
2 総会費	3,000	0	△ 3,000	
3 事業費	318,000	353,000	▲ 35,000	39冊
機関誌印刷費	200,000	211,000	▲ 11,000	
機関誌送料	70,000	70,000	△ 0	会費振興文化振興事業団
内 研究発表会費	10,000	5,000	△ 5,000	印刷費(5,000円)・送料
内 調査研究費	33,000	50,000	▲ 17,000	東北民俗学研究会 調査費(10,000円)
その他	3,000	5,000	▲ 2,000	初年度安全事業費
4 予備費	6,014	12,600	▲ 5,586	図書経費用金庫賃借料
計	404,614	407,473	▲ 2,889	

総収入	417,153 円	
総支出	407,473 円	
繰り越	9,680 円	
収入の部	予算額	内訳
会費	174,000	3000円×56人
機関誌送料	30,000	
文化振興助成金	200,000	
寄付金・その他	0	
繰越金	9,680	前年度繰越金
計	413,680	
支出の部	予算額	内訳
1 事務費	41,880	
内 事務経費	9,000	事務所半日(1人)
内 通信・印刷費	30,000	機関誌送料、郵送、文具
2 総会費	3,000	総会費
3 事業費	360,000	
機関誌印刷費	230,000	50冊
機関誌送料	40,000	機関誌送料(1,000)
内 研究発表会費	10,000	東北民俗学研究会(2,000円)・送料
内 調査研究費	30,000	東北民俗学研究会 調査費(10,000円)
その他	50,000	初年度安全事業費
4 予備費	12,600	図書経費用金庫賃借料等
計	413,680	

災をテーマにした談話会を開催することになっていたため、日程が重なることから、岩手県が担当する「東北地方民俗学合同研究会」は中止とする。平成24年度に再度岩手県が担当するとの内容であった。したがって、この件については、来年度改めて会員各位にご案内する。

(3) 地域持ち回り研究会について

本年度は、中通りで開催する。研究会担当幹事の榎陽介氏から、須賀川市博物館で開催する方向で日程・内容等を調整中であることを報告した。

9 その他

(1) ブログ開設について

本会のホームページの機能を補完するため、新たにブログを開設したことを報告した。URLは次の通り
http://blogs.yahoo.co.jp/fukushima_folklore1971
 情報交換には大変便利なので、催しものの通知などにもご利用願いたい。

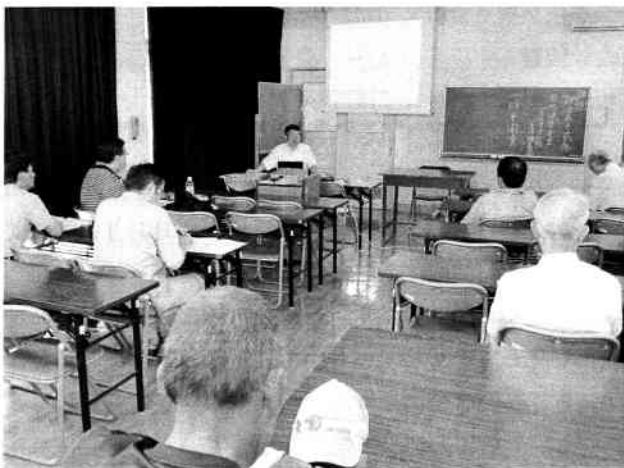
(2) ニュースレターの発行について

総会・研究会・講演会等の会活動の報告、お知らせ等、会員への情報提供の媒体として、今年度の総会后に、ニュースレターを発行することを報告した（年2回発行予定）。

10 議長解任

11 閉会

閉会後は研究発表（2名）、昼食をはさみ、菊池健策先生の公開講演会があった。講演会終了後、郡山駅前中華料理店で、菊池先生を囲み懇親会を開いた。



平成23年度 公開講演会「地震と民俗」

講師 菊池 健策先生（文化庁伝統文化課文化財主任調査官）

講演のテーマは、民俗学は地震という自然現象、社会現象にどう対応できるのか、いかに対応すべきかという点にあった。この3月に起きたばかりの東日本大震災を踏まえてのお話であり、「被災地福島県」にとって大いに援けになる講演内容であった。

民俗学の立場では、①地震に関する伝承の研究、②震災に伴う文化現象への着目、③震災に伴う祭り行事などの被害、伝承者自身や伝承母体の被害に対する民俗学の寄与などがある。それを踏まえると、①文字や映像による伝承の記録化、②有形無形の資料の救出や記録化、③人文科学としての民俗学の使命の実践があるという。とくに地域社会と深くかかわってきた民俗学は、地域社会の復興に対しさまざまな寄与が可能である。あくまでも、暮らしを営む人の選択寄り添ってアドバイスすることが民俗学の役割であろう、また、行われるべきときに、無理なく行われるようになって初めて民俗文化の復興といえる、被災地では「終の棲家」が決まるまでは、復興の判断はできないのではないかと説いた。文化庁でも3月下旬に文化財レスキューを組織するなど、指定文化財の有無を問わず動産文化財、美術品等の救済を行っており、その具体的な方策や手続きについてのお話もあった。

研究発表

今回は2名の会員から研究発表があった。

研究発表①

関東の伝統都市と民俗一鷹と商家の生活史
 内山大介会員（会津若松市）

氏はこの4月から福島県立博物館の学芸員として勤務されている若手研究者。栃木県小山市などで継続してきた研究成果に基づき、都市の商家を支えてきた「鷹職」に着目し、商家との付き合い関係、祭礼などにおける重要な役割を論じた。東北地方にも伝統的な都市があるにもかかわらず、鷹を取り上げた研究は皆無に等しい。福島県の都市民俗研究は相対的に低調であったともいえるが、会津民俗研究会のように、町に着目した調査研究もある。福島県内には色あいの異なる伝統的な都市が多数存在しており、内山氏の参加により、福島県内の都市社会の民俗学的な研究の進展に期待したい。

研究発表②

南相馬市の文化財被災一ふるさとを失う危機
 安部幹洋会員（南相馬市）

安部氏は南相馬市役所職員。合併前の小高町教育委員会で町史編纂の立ち上げや、『おだかの歴史』シリーズの企画編集などにもかかわる。安部氏ご自身、生家が津波で破壊され、さらに原発事故により避難を余儀なくされている。安部氏は「放射能汚染」により南相馬市が、危機的な状況に置かれていることを説明した。「放射能汚染」がもたらす自治体の「限界集落化」の可能性も指摘。文化財被災は、文化財関連事業や編纂事業の中断、無形の民俗の存続の危機、学芸員など専門職の流失などにも及び、これに対し、図書館と博物館の積極的な役割の

必要性、失われた被災地を仮想空間に保存する事業、津波伝承の聞き取り調査と資料化をすすめることが必要であると説いた。

* 地域持ち回り研究会く須賀川市

今回の地域持ち回り研究会は中通り、須賀川市立博物館のご協力で開催することができた。

佐々木会長の挨拶で始まり、研究発表は藤田直一会員、同館学芸員の管野和恵氏の2名であった。

研究発表後は同館学芸員渡辺哲也氏の解説で、開催中の「亜欧堂田善展—銅版画と日本画」（10月18日～11月27日）を見学し、場所を市内のデニーズに移して、幹事会と懇親会を開いた。

日時 平成23年10月29日（土）13:30～15:30

場所 須賀川市立博物館図書室



研究発表①

民俗芸能の保存と継承—棚倉町での取り組み
藤田直一会員（棚倉町教育委員会）

国指定重要無形民俗文化財「八槻都々古別神社の御田植」は、昭和59年に記録作成がなされ、県指定の「八槻都々古別神社の神楽」についてもDVDを製作した。他の指定物件の記録化は今後の課題になっている。平成10年から町では民俗芸能の後継者育成を図るために、さまざまな取り組みをしてきた。このうち、都々古別楽人会の指導による近津小学校中高学年児童に対する取り組みの報告がなされた。これによってすんなり継承できるわけではなく課題も多いが、今後も積極的に地域活性化を図る事業を展開していく具体的方策が示された。

研究発表②

須賀川市内における震災による文化財被害とレスキューの課題

管野和恵氏（須賀川市立博物館）

現在管野氏が取り組んでいる、東日本大震災による資料のレスキュー活動、抱える課題についての報告であっ

た。須賀川市では旧長沼町の藤沼湖の決壊により、文化財収蔵庫が甚大な被害を受けた。一自治体の文化財担当だけでは対処できない状況であったため、さまざまな機関からの助力を得て対応している。市では震災後に個人宅の資料の受け入れを表明したが、博物館では受け入れのためのスペースが不足し、対応しきれないという事態も発生している。また市街地では町づくりの主眼にしてきた土蔵の破損も多く、修復費用がかさむために取り壊される事例も発生し、早急な対応が求められている。

計報

.....
 本会顧問の三瓶源作先生（福島市）が4月23日逝去された。県民俗学会創設当時のメンバーで、福島県内の養蚕習俗の研究に先鞭を付けられた先生である。長年県立高校で教鞭をとり、県北を中心とする各地の自治体史編纂にも参画されて、多くの業績を残された。心からご冥福をお祈りします。

平成23年度福島県民俗学会役員・顧問

会 長	吉田 博令	顧 問
佐々木長生	幹 事	岩谷 浩光
副会長	鏈水 実（県南）	鹿野 正男
田母野公彦（中通）	野沢 謙治（県中）	木口 勝弘
岩崎 真幸（浜通）	相原 達郎（県北）	三瓶 源作
事務局	懸田 弘訓（県北）	安藤 紫香
大山 孝正（長）	村川 友彦（県北）	
伊藤 清和	榎 陽介（会津）	
二本松文雄（会計）	小沢 弘道（会津）	
会計監査	石井 克生（いわき）	
相馬 胤道	丹野香須美（いわき）	

つぶや記

大変な年はいつまで続くのだろうか？福島県民の願いは、ただ一つ。3月11日以前に戻してもらいたい▼『ふおーらむ・F』の創刊号をお届けします。産声をあげたばかりのニューズ・レターです▼ちょっと堅苦しくなりましたが、皆様のご協力を得ながら、情報交換の場としてふさわしい紙面にしていきたいと思っています▼IndesignとIllustratorを駆使して作成しています。ブログやメールなどで感想をお寄せ下さい（編集構成 岩崎真幸）

『ふおーらむ・F』第1号

2001年11月30日発行

編集・発行 福島県民俗学会（会長 佐々木長生）

福島県会津若松市城東町1-25 福島県立博物館内

☎965-0807 事務局担当は榎、内山